

# SDGs未来都市等進捗評価シート

2019年度選定

福岡県大牟田市

2022年8月

**SDGs未来都市計画名**

自治体SDGsモデル事業  
又は特に注力する先導的取組

大牟田市 SDGs未来都市計画

—

## 1. 全体計画（2030年のあるべき姿）

## (1) 計画タイトル

大牟田市 SDGs未来都市計画

## (2) 2030年のあるべき姿

本市の独自性や強みに目を向け、これまでにない新しい視点や取組みを示しながら持続発展可能なまちづくりを進めていくことが求められるが、人口減少や少子高齢化が進み、まちづくりに投下し得る行政資源はますます先細っていくため、これまで以上に人を中心としたまちづくりが必要となる。このまちに暮らす人が、将来にわたって安心して暮らし、本市に住んでいることを自ら誇ることができるまちづくりを市民とともに実現していくため、「人が育ち、人でにぎわい、人を大切にする、ほっとシティおおむた」を目指す将来の都市像として掲げ、実現に向け取り組んでいく。（2030年の本市の将来展望人口は99,211人）

## (3) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた優先的なゴール

経済	社会	環境
 8 働きがいも経済成長も	 9 産業と技術革新の基盤をつくろう	 12 つくる責任 つかう責任
 4 質の高い教育をみんなに	 11 住み続けられるまちづくりを	 14 海の豊かさを増そう

## (4) 2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況

No	指標名 ※[]内はゴール・ターゲット番号	当初値	2021年（現状値）	2030年（目標値）	達成度（%）
1	企業の活力があふれ成長するまちの実現 【8.3, 8.9, 9.1, 9.2】	2018年3月 推進	2022年3月 推進	2030年 実現	33%
2	企業の新規立地（増設含む） 【8.3, 8.9, 9.1, 9.2】	2018年3月 19社（延べ）	2022年3月 38社（延べ）	2030年 67社（延べ）	40%
3	将来に向けて意欲を持って取り組もうとする中学3年生の割合 【4.1, 4.2, 4.7】	2018年3月 76.2%	2022年3月 82.8%	2030年 80.0%	174%
4	高齢になっても安心して暮らし続けられると思う市民の割合 【11.1, 11.2, 11.4, 11.7】	2018年3月 47.5%	2022年3月 53.8%	2030年 70.0%	28%
5	三川坑公開日1日あたりの来場者数 【11.1, 11.2, 11.4, 11.7】	2018年3月 146人/日	2022年3月 106人/日	2030年 146人/日	73%
6	ごみ総排出量 【12.3, 12.5, 14.1, 14.2】	2018年3月 38,092 t	2022年3月 35,604 t	2030年 32,611 t	45%
7	市民の工口行動の実施率 【12.3, 12.5, 14.1, 14.2】	2018年3月 70.4%	2022年3月 75.9%	2030年 100%	19%

## (5) 「2030年のあるべき姿の実現へ向けた取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

■新型コロナウイルスの影響が続く一方で、九州地域では、半導体関連工場の新増設などのさまざまな動きがあり、本市においても、半導体製造に用いる部品や原材料などを扱う企業において、増産に向けた設備投資が行われた。そのほか、大牟田市企業誘致推進協議会を中心に、国・県等の関係機関と協力しながら企業誘致に取り組んだ結果、概ね目標値を達成することができた。イノベーション創出拠点を中心に、情報関連企業の誘致や人・企業の活発な交流を促進するとともに、関係機関と推進体制を構築し、地域企業のIT人材育成や実証実験サポート等の取組みを推進する。

■新型コロナウイルス感染拡大に配慮し、炭鉦（ヤマ）の祭典を小規模開催とした他、こいのぼりやイルミネーションによるイベントを行った結果、目標は未達成だったが、公開日数123日（昨年度105日）、来場者数は105.7人/日（74.4人/日）といずれも昨年度より増加した。世界遺産をはじめとする近代化遺産や文化財の保存・活用により、まちの歴史や文化について、多くの市民が理解を深め、まちへの愛着と誇りにつなげていくこと併せ、それらの価値を広く内外に周知し、その魅力に触れてもらえるよう取り組む。

■ごみ総排出量は、災害廃棄物の排出がほとんどなくなったこと、新型コロナウイルスによる飲食店等への営業自粛の影響などにより、前年度と比較して、燃えるごみの量が2,329t、燃えないごみの量が334t減少したことから、目標を達成することができた。ごみ総排出量の減量化や資源化量の割合の向上のため、ごみ処理基本計画に基づいた、3Rのうち優先順位が高いリデュース、リユースの2Rの取組みを強化し、ごみの減量化（排出抑制）を図るとともに、分別ルールに基づいた排出段階における分別の徹底を促すなど、資源化の促進を図る。

■達成度について、基本計算式ではないものは以下のとおり。

No.1：新たに地域企業の支援としてイノベーション創出促進事業等に取り組んでいることから、実現に向けて順調に進捗していると考え、12年（2019-2030）のうちの4年間の進捗として、33%の達成度とした。

No.5：目標値を現状値と同じ値で設定しているおり、基本計算式で計算できないため、現状値/目標値の計算式を使用。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2019年 実績	2020年 実績	2021年 実績	2021年 目標値	達成度 (%)
1	企業の活力があふれ 成長するまち	新規取引件数	2017年度 31 件	2019年 68 件 (延)	2020年 81 件 (延)	2021年 93 件 (延)	2021年 80 件 (延)	127%
2	新しい企業・産業がう まれ、はぐまれるまち	企業の新規立地（増 設含む）	2017年度 19 社	2019年 32 社 (延)	2020年 34 社 (延)	2021年 38 社 (延)	2021年 31 社 (延)	158%
3	社会を生き抜く力を 育成する学校教育が 充実しているまち	将来に向けて意欲を 持って取り組もうとする 中学3年生の割合	2017年度 76.2 %	2019年 82.8 %	2020年 82.6 %	2021年 82.8 %	2021年 80.0 %	174%
4	障害があっても、みん なと一緒に自分らしく 暮らせるまち	障害についての理解度	2017年度 59.1 %	2019年 67.9 %	2020年 69.6 %	2021年 69.9 %	2021年 70.0 %	99%
5	高齢になっても、住み 慣れた地域で安心して 暮らし続けることが できるまち	高齢になっても安心し て暮らし続けられると思 う市民の割合	2017年度 47.5 %	2019年 47.6 %	2020年 55.6 %	2021年 53.8 %	2021年 60.0 %	50%
6	文化芸術に親しみ、 心豊かに生活できる まち	三川坑公開日1日あ たりの来場者数	2017年度 146 人/日	2019年 109 人/日	2020年 74 人/日	2021年 106 人/日	2021年 146 人/日	73%
7	資源が循環する環境 にやさしいまち	ごみ総排出量	2017年度 38,092 t	2019年 38,002 t	2020年 38,106 t	2021年 35,604 t	2021年 36,092 t	124%
8	地球や自然を大切に するまち	市民のエコ行動の実施 率	2017年度 70.4 %	2019年 72.1 %	2020年 74.5 %	2021年 75.9 %	2021年 83.0 %	44%

## (2) 自律的好循環の形成へ向けた制度の構築等

2021年4月に大牟田商工会議所が、BCPの策定等防災支援・危機管理体制構築支援（地震・水害・感染症対策）やSDGs推進など、産業の育成・振興に向け相互に連携した経営支援を円滑に行うことにより、地域経済の活性化を図ることを目的として、損害保険会社4社と包括連携協定を締結している。

その中で、大牟田市や三井住友海上火災保険株式会社・福岡銀行・西日本シティ銀行と連携して、SDGsを経営に取り入れることで持続的に発展する強靱な経営基盤を築くため、同年10月に「大牟田商工会議所SDGs推進企業登録制度」を創設し、登録された企業については、「SDGs推進企業」として同所ホームページや会報において紹介するとともに、CO2削減量の無償測定などにより、SDGsの取組を積極的に推進する会員事業所の支援を行っている。

## (3) 「自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況」を踏まえた進捗状況や課題等

■ 2021年度の実績値は82.8%となり、目標を達成することができた。その要因としては、児童生徒に「確かな学力（知）」、「豊かな心（徳）」、「健やかな体（体）」をバランスよく育むとともに、個性や能力を伸ばすため、各学校は、児童生徒の興味・関心や能力に応じた教育活動を展開し、教育委員会はその支援を行うとともに、様々な全学的事業に取り組んだ。その結果、児童生徒それぞれが自己のよさを様々な場面で発揮でき、達成感を味わうことができたと考えている。今後も、知・徳・体のバランスが取れた教育を推進するとともに、本市の特色ある教育の充実を図ることにより、児童生徒が達成感を味わい、新たな目標と将来に向けた意欲を持つことができるよう進めていく。また、児童生徒の発達段階に応じて、系統的なキャリア教育に取り組んでいく。

■ 住み慣れた地域で安心して暮らし続けるためには、住まいを中心に、医療、介護、介護予防、生活支援のサービスがその人の状態に合わせて一体的かつ体系的に提供される「地域包括ケアシステム」の構築が必要である。地域で暮らす高齢者を介護・福祉・医療など様々な面から総合的に支援するため、地域包括支援センター（市内6箇所に設置し、社会福祉士、主任介護支援専門員、保健師等を配置し、内容を問わず包括的に相談を受け、支援を行っている。今後も地域の中での様々な社会資源との連携を深めながら、様々な困りごとに対して支援できる総合相談体制を構築し、高齢者をはじめ市民が地域で安心して暮らし続けることができるまちづくりを推進する。

## 1. 全体計画（自治体SDGsの推進に資する取組）：計画期間2019年～2021年

## (1) 自治体SDGsの推進に資する取組の達成状況

No	取組名	指標名	当初値	2019年 実績	2020年 実績	2021年 実績	2021年 目標値	達成度 (%)
----	-----	-----	-----	-------------	-------------	-------------	--------------	------------

## (4) 有識者からの取組に対する評価

・2021年10月に創設した「大牟田商工会議所SDGs推進企業登録制度」において登録された企業の取組を商工会議所のウェブサイトや会報において紹介するなど評価できる。そのうえで、これら登録された企業数をKPIとして、計画上位位置付けることも一案であると思料する。

・企業の新規取引数が目標を上回り、新規立地が順調に増加していることについて、市の取組む「企業の活力を高める取組」が具体化している結果として高く評価できる。

・地域の暮らしの社会キャピタル、カーボンニュートラルの分野に展開することの検討、ユネスコスクールとの連携についての具体的に検討されることを必要だと思料する。

・大牟田市は、かねてより国連大学が認定する国内のRCEとして活動していると認識しているため、総括資料の「6取組成果」にて紹介されている概括的な取組だけではなく、より市民活動に密着し、市民団体などとも連携した実態的な活動状況についての報告を期待する。